

# 留萌港

## 留萌市地域振興部経済港湾課

〒077-8601 留萌市幸町1丁目11番地

☎0164-42-1840

URL : <http://www.e-rumoi.jp/>



## 1. 概況

留萌市は、北海道西北部の日本海側、北緯43°56'19"、東経141°38'26"に位置し、留萌振興局管内の中心都市であり、水産加工を基幹産業とし、さらに国の重要港湾を核として、たゆまぬ発展を続けている。

市の地形を概観すると、東西に走る留萌川を中心に両翼には平原、丘陵が続き、南側の地形は比較的高度のある山並みがあり、北部は低位な丘陵地で、市の中心部は商店街によって形成され、南部には官公庁、学校、住宅地が広がっている。

豊かな自然に恵まれた留萌市は、西には日本海、南北には暑寒別天売焼尻国定公園が連なり、暑寒別山系をはじめ夢の浮島といわれる天売・焼尻が望まれ、特に晴れた日には、遠く利尻・礼文の島影が夕陽の輝く日本海に浮かぶ姿が見られ、風光明媚なマチである。

留萌港は、北海道の北西部に位置し、昭和27年に重要港湾に指定され、道北地域の拠点港湾として重要な役割を果たしている。古丹浜地区、北岸地区、南岸地区、大町地区、塩見地区、三泊地区など計8地区で構成されている留萌港は、主な係留施設としては古丹浜地区に-10.0m岸壁(延長185m)と-7.5m岸壁(延長260m)、北岸地区に-8.0m岸壁(延長451m)、南岸地区に-8.0m岸壁(延長295m)、三泊地区には平成16年3月に完成を迎えた-12.0m岸壁(延長241m)の大型係留施設を有しており、これらは原木、セメント、砂・砂利、石炭等を取扱う一般貨物船の利用に供されている。

対岸貿易については、国内における電力需要の増加により、火力発電所で使用するロシア産の輸入石炭の取扱いが平成23年より増加傾向にある。また、輸入については、過去5カ年においてほとんど取扱い実績が無かったものの、平成26年に中国・韓国に向け、地域トドマツ原木の初輸出が行われ、今後の動向に期待が寄せられているところである。

留萌港の背後圏は、北海道第2の都市である旭川を中心とする上川・空知地方を有し、産業が集積しており、北海道を代表する穀倉地帯ともなっており、現在整備中の「高規格幹線道路 深川留萌自動車道」は、平成25年3月に留萌大和田インターチェンジが供用開始となり、現在は、留萌市内での接続に向けた整備が行われていることから、三泊-12.0m岸壁と一体となった整備で背後圏の発展を支える流通拠点港としての役割がますます高まってきている。

また、この三泊地区で-12.0m岸壁は、近年の船舶の大

型化に対応可能な岸壁として機能しており、輸入石炭では、28,000D/Wクラスの船舶が入港している。現在の取扱貨物については、石炭大型船受入岸壁として、平成26年輸入取扱量で47万t超の取扱いがあり、留萌港の全体貨物量のおよそ32パーセントを占めている。

更に、岸壁背後の用地については、港湾関連用地として、売却予定地としており、道路、緑地の周辺整備が急がれている。